

平成 24 年 3 月 20 日

岩国文化

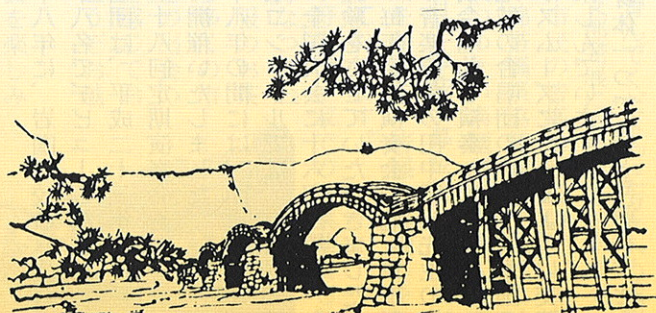
編集 岩国市文化協会
発行 岩国市文化協会
<http://www.iwakuni-bunka.com/>
〒740-8585
岩国市今津町1-14-51
岩国市教育委員会
生涯学習課内
印刷 (有) 国際総合



岩国混声合唱団 第66回 合唱コンクール山口県大会 (金賞)
(平成23年8月21日、宇部市渡辺翁記念会館)

【主な内容】

文化協会活動紹介
市民文化祭特集
文化功労賞等表彰
加盟団体紹介
行事報告

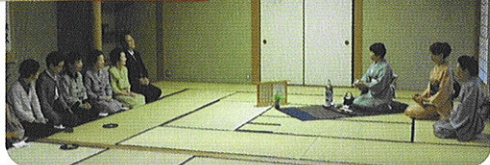


平成23年度文化協会活動紹介

『春の総合文化フェスティバル』

五月二十八日、二十九日の二日間、シンフォニア岩国で「春の総合文化フェスティバル」が開催されました。

ステージでは、新舞踊と民謡による「響声麗舞 日本の心」が披露され、「ミュージックアラカルト」「室内楽の午後」と題した演奏会も行われました。合同作品展では、華道、書道、絵画の多彩な作品が展示されました。また二日間ともお茶席が設けられ、優美なお点前を披露されました。



『おいでませ！山口国体 錦帯橋文化の祭典』

十月八日、九日の二日間、錦帯橋周辺で「錦帯橋文化の祭典」が開催されました。

八日には、当協会より邦舞、新舞踊、邦楽、大正琴、歌謡部門の皆さんが出演されました。鶴飼広場に設置された特設ステージでの華やかな公演となり、多くの観客に楽しんでいただきました。



『地区公演事業 本郷公演』

十二月十一日、本郷公民館で行われた本郷生涯学習フェスタに、

当協会からは、藤本流秀規、菅源流の皆さんがゲスト出演され、たくさんの方々の来場者の方々に大変喜ばれました。



『東日本大震災義援金募金のご報告』

当協会では、被災地の皆様の救済及び復興支援のため、平成二十三年三月二十三日から各団体へ募金の呼びかけを行いました。お寄せいただきました義援金は、平成二十四年二月二十日現在、総額で一、六六八、〇四八円となり、岩国市文化協会として日本赤十字社に全額寄付させていただきますことをご報告いたします。

昭和四十八年に、岩国高校OB合唱団として十八名でデビューした私たち岩国混声合唱団は、平成二十三年十一月二十日に第三十八回定期演奏会をシンフォニア岩国で開催いたしました。

岩国混声合唱団

この三十八年の間には、団員も増え、全日本合唱コンクールでは、中国地区代表として、全国大会に十六回出場し、とてもよい経験をさせていただきました。

現在は、毎年定期演奏会の他、東京混声合唱団の音楽監督の田中信昭先生の指揮で、委嘱合唱曲を演奏しています。

また、地域の合唱団の仲間と、岩国の音楽活動がスムーズに行えるように交流を深めて楽しんでいます。

合唱は身体一つで誰でも演奏できます。

私たちと一緒に歌いませんか。

(安東栄一記)

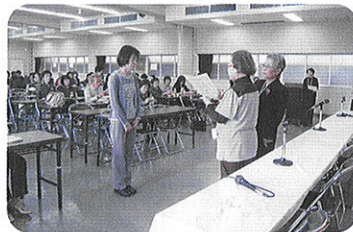


岩国混声合唱団 第38回定期演奏会
平成23年11月20日

第55回 岩国市民文化祭

■ 短歌

岩国市民短歌大会も、第三十八回を無事終了。一般の部百四十七首、ジュニアの部一千首の応募がありました。市内の三短歌会が協力、結束しての大会運営は、岩国短歌協会の最も特長とするところで



選者選一位
湯の中に結んで開く 草刈機の柄の振動
の残つてゐる手 森田アヤ子

互選一位
励ましの言葉を言はず臨月のナース吾が
手を胎動に置く 笠松美佐子

小学生の部一位
弟とけんかするたび思うこといいなとい
いのにいいなと気になる

岩国小一年 中野 百萌

中学生の部一位
暑い日にひよいと顔出すかにの子のはく
泡の色淡い夏色

通津中二年 白川 直人

高校生の部一位
どうしても必要だけど邪魔になる二律背
反携帯電話

岩国高二年 竹下 泰弘
(岩国短歌協会事務局 記)

■ 洋舞

平成二十三年度岩国市洋舞フェスティバルは、七月十七日(日)、岩国市民会館大ホールにおいて、開催されました。バレエ、ジャズダンス、ジャズバレエ、ソシアルダンスの四種目を様々な年代の男女、約百名の出演者が、日ごろの練習の成果を舞台いっぱい元気良く披露されました。

土曜日の午前中から準備を始め、夕方から種目ごとのリハーサルを行い、当日の午前には、ゲネプロ(衣装を着けてすべてを本番どおりに行う)をし、午後からの本番を迎えます。

この間、演目ごとに衣装の着替え、舞台袖と控え室の間の移動、舞台上での演舞と、出演者一同汗びっしょりになりました。がら一生懸命に舞台を努めました。

(洋舞部門事務局 記)



■ 吟剣詩舞

岩国地区吟剣詩舞道連盟は、昭和五十一年四月岩国市近郊の愛好家により結成され、第一回大会を盛況裏に開催いたしました。

その後毎年開催され、平成二十三年度第三十八回大会開催に至りました。

当連盟は「伝統文化の発展・継承」「豊かな人間性の育成」を目指し、大会には多数の幼稚園児や小中学生が出演しています。

また、大会内容も詩吟、剣詩舞、日舞、唱歌、歌謡曲等多彩です。大会以外の活動として、「錦帯橋花菖蒲まつり」に毎年参加しており、「もみじまつり」「アトフェスタいわくに」などにも参加してまいりました。

(米光駿風 記)



■ 映像



毎年一回、文化協会の協力のもとに、映像部門で「近郊カメラマンたちの写祭」という写真展を開催し、今年で三回目となりました。回を追う毎に、このタイトルも知られ、出展参加者や来場者数も上がり充実した写真展になりました。

市内及び近郊の写真愛好家に声をかけると、たちまち百名あまりの方々が集まり、こういう写真展を待ち望んでいたことが分かりました。また、打ち合わせ内容も、和気あいあいのうちに決定することができました。やはり「写祭」と銘打っているように、本当に写真の内容もそれぞれで、みなさんがお祭りのような感覚で出展されました。審査も賞もない純粋に写真に対する自由な発想と感覚が、見る人に少しでも「感動」と「やすらぎ」を与えられたら、岩国市民文化祭参加の目的も、達成できるかと思っています。

(篠原芳弘 記)

栄えある受賞 おめでとうございます。

岩国市文化協会では、協会の発展や岩国市の文化振興に功績のあった方々を表彰しています。
平成23年11月3日(祝)に岩国国際観光ホテルに於て表彰式と祝賀会が開催されました。



山崎 千穂	河尻 千尋	竹山会(西村)	対岸俳句会 (島津)	歌謡教室 白蛇(権代)	華道家元岩国 小原流会(堀)	岩見屋錦舟
藤間利紫洋	屋並 哲男	森川 春節	中村 源治	河下 禮子	豊田 靖子	大朝 房男
山崎 順子	平中 吟侑	村重 初風	柳澤 静子	山村若千粧	木村 洋山	

●岩国市文化協会表彰●

久能賞

久能賞は、初代会長の久能寅夫先生の
顕彰会からの寄付金を基金として、文化
振興に功績のあった他の模範となる個人
や団体を表彰するものです。

中村 源治 (岩国喜謡会)
森川 春節 (草月流岩国)

文化功労賞

文化功労賞は、文化振興、協会、加盟
団体の発展に永年貢献し、功績があった
個人や団体を表彰するものです。

個人
岩見屋 錦舟

大朝 房男 (岩国地区高等学校書道部会)
木村 洋山 (岩国同人俳句会)

(新都山流尺八山口県支部弘友会)
豊田 靖子 (岩国ジャズダンス同好会)
平中 吟侑 (不二心流吟道会)

村重 初風 (専心小笠原流煎茶岩国支部)
柳澤 静子 (華道家元池坊岩国支部)

団体

華道家元岩国小原流会
歌謡教室 白蛇
対岸俳句会
竹山会

文化奨励賞

文化奨励賞は、芸術文化の分野で高い
評価を受け、今後の活躍が期待される個
人や団体を表彰するものです。

河尻 千尋 (岩国ジャズバレエ研究会)
藤間 利紫洋 (藤間流藤紫会)
山崎 順子 (岩国演劇研究会「劇団のんた」)

●岩国市教育委員会表彰●

文化功労賞

岩国市文化功労賞を受賞されました皆
さんのご紹介です。

個人

香川 靖嗣 (能楽)
河下 禮子 (茶道)
村上 弦一郎 (音楽)
屋並 哲男 (絵画)

団体

生見中村地区 (文化財)
上沼田神楽保存会 (文化財)
下の神楽保存会 (文化財)
長野神楽舞保存会 (文化財)

(敬称略)

団体紹介

絵画・彫刻工芸デザイン部門 竹山会

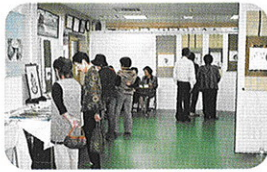
竹山会は昭和四十二年竹原和勝（竹山）先生により創設されました。以来、毎週（月曜日・土曜日）毎日を竹原先生のご指導を中心に水墨画（墨絵）並びにわが国固有の軸の表装、額、屏風などの伝承を会員相互の研鑽によって習得してまいりました。

先生の没後は、経験の豊富な先輩が後輩に指導し、互いに切磋琢磨しながら「元気に楽しく」をモットーにして現在に至っております。

会員数はここ数年来四十名以上であり、又会員相互のコミュニケーションの場として教室以外に毎月例会を設けお互いに作品を持ち寄り鑑賞したり批評しながら親睦を深めています。

会員の作品展は四月と十月が定例であり、双方合わせて四十一回目になりました。岩国市文化協会そのほか、出品要請があれば各種行事にも積極的に出品しています。竹山会は楽しい会です。皆さんどうぞ気楽に遊びに来てください。

（西村式部 記）



能楽部門 観世流大江観正社岩国支部



七世 大江又三郎 師

昭和四十二年四月十六日、京都より六世大江又三郎師を迎えて発足。現在は、七世大江又三郎師（観世流職分。重要無形文化財総合指定。能楽協会京都支部長）の指導を毎月一回シンフォニア岩国にて受けています。

春四月、宮島桃花祭神能には会員有志が毎年出演いたします。秋十月には全国大会があり北海道から九州までの会員が集い、由緒ある大江能楽堂の舞台に出演させていただきます。また、年に幾度か京都に参りまして蘭の会、観世能、大江定期能などの鑑賞をいたします。

日本の文化、数多あるなかで最初に世界文化遺産として認定された能楽を、謡曲や仕舞の稽古を通して体験してみませんか。見学も体験レッスンもできます。どうぞお気軽にお声をかけてくださいませ。

（竹内とし子 記）



全国大会

邦舞部門 山村流若葉会

昭和三十三年に山村流の名取となり、昭和三十七年に山村流若葉会を設立しました。昭和四十八年には、初めての発表会を労働会館で行いました。

現在では、岩国市民文化祭「邦舞錦扇会」に毎回出演し、二年に一度開催される「ゆう扇会」での発表も行っています。

昭和五十六年に由宇町教育委員会より奨励賞を、平成二十二年には岩国市文化協会文化功労賞をいただきました。数々の栄ある賞は、私個人だけでなく山村流若葉会全員にいただいたと思います感謝しております。

これからも岩国市の文化の発展、並びに地域の活性化に貢献できるよう努力してまいります。

（山村若津久 記）



邦舞錦扇会にて「雨」を踊る

茶道部門 （社）茶道裏千家淡交会岩国支部



淡交会岩国支部は、昭和三十八年五月十九日、支部として発足いたしました。平成二十五年が、五十年目の節目にあたり、五十周年記念行事の準備に取り組んでおります。

長い間、育んでくださった方々への感謝を忘れず、支部発展に努力しております。その間、市民の皆様のご協力で、四月二十九日の錦帯橋祭協賛茶会、七月には納涼茶会（つめたい素麺が大変な人気です）、十一月には共同募金釜と、全員が分担し茶席を開いて、皆様のお越しをお待ちいたしております。

また、宇野千代生家での紅葉茶会も各流当番で行なっております。一服のお茶に結ばれる多くの市民の皆様との出会いに、喜びを感じております。どうぞお越し下さい。

一期一会を楽しみに努力しております。

（前野美佐枝 記）



作品と受賞者の紹介

《岩国市俳句大会(十月二十三日開催)》

市長賞 中村 律子

「緩やかに 水巡りをり 花菖蒲」

《岩国市短歌大会(十月二十三日開催)》

市長賞 森田アヤ子

「湯の中に結んで開く 草刈機の柄の

振動の残つてゐる手」

《岩国市川柳大会(十月二十二日開催)》

市長賞 末岡美智子

(川柳大会はそれぞれの課題に一位があり、市長賞は各句の点の合計が最高得点の人に与えられます。)

新・岩国百景



美和町・弥栄峡の奇岩

写真・久村展康

文化協会行事報告(平成23年度)

平成23年	5月6日	第一回会員委員会
	5月28日	第一回理事会
	5月29日	春の総合文化フェスティバル
	5月29日	代議員会
	7月10日	市民文化祭総合開会式
	7月31日	第二回会員委員会
	7月31日	第一回事業委員会
	7月31日	第二回理事会
	8月17日	久能賞選考委員会
	10月8日	おいでませ!山口国体
	10月8日	錦帯橋文化の祭典
	11月3日	岩国市文化功労賞等
	11月22日	表彰式典・祝賀会
	12月18日	第一回編集委員会
	12月18日	第三回理事会
平成24年	1月9日	第一回企画委員会
	1月10日	第二回編集委員会
	1月31日	第三回編集委員会
	2月21日	第四回編集委員会
	3月予定	第四回理事会

『岩国市文化協会ホームページ』 が新しく生まれ変わりました!

会員の皆様の催し物、活動状況、新規会員の募集等を今まで以上に充実させ、さまざまな情報を発信してまいります。新ホームページのURLは表紙上部にも記載しておりますので、どうぞアクセスしてみてください。

<http://www.iwakuni-bunka.com/>

文化協会役員紹介(平成23年度)

顧問	福田 良彦
名誉会長	佐々生君子
会長	藤谷 光信
副会長	安東 栄一
	岩見屋 健
	廣重 光風
理事長	元島 祥次
常務理事	松藤 幾治
理事	石川 善久
	井原多佳子
	江村 恒子
	小國 正巳
	片原 政子
	晃月 恵寿
	近藤 順子
	篠原 芳弘
	田村 順玄
	中村 源治
	浜村 瑞穂
	半田 幸男
	藤永 具視
	藤間勘三津
	藤本秀規
	宮崎 裕美
	宮本歌千穂
	柳澤 静子
	山下 好雄
	山吹 誠
	米光 駿風
	賀屋 恍山
	堀 豊輝

監査

文学 生涯学習課
音楽 生涯学習課
歌謡 生涯学習課
茶道 生涯学習課
書道 生涯学習課
短歌 生涯学習課
新舞踊 クラフト
映像 演劇
能楽 俳句
絵画等 合唱
邦舞 民謡
洋舞 邦楽
華道 盆栽
高校書道 吟剣詩舞

(平成二十四年三月一日現在)

編集後記

十年來の懸案であった「岩国文化芸術創造都市宣言」が実現性を帯びてきました。

国民文化祭で日本一となった短歌や押花、中国地方屈指の混声合唱団、異色な活動をしている岩国藩鉄砲隊、ミュージカル、香道の会、宇野千代顕彰会、総合文芸誌で百十二号を発刊した地方文化の会など岩国の文化水準の高さや特異性を物語る活動は、枚挙に暇がありません。

さらに、マルクス経済学の第一人者・河上肇、民法学の泰斗・末川博、数学のフィールズ賞受賞・広中平祐、文芸評論の奇才・河上徹太郎、女流文学界の大輪の花・宇野千代など日本的に著名な学者・文化人を多数輩出しています。

現在でも東京スカイツリーのデザイン監修者・元東京芸芸大学長澄川喜一、知性派漫画家の筆頭・弘兼憲史など中央で活躍している人も多いためです。

この多彩な岩国脈は他都市の追従を許さないでしょう。

「岩国文化芸術創造都市宣言」は、やがて、条例、計画、事業、予算に展開されるでしょう。今回の表紙は、何度も中国大会で金賞を受賞された岩国の誇る混声合唱団に登場していただきました。全国大会制覇の日も間近だと信じます。

今回の市民文化祭の記事では、短歌、洋舞、吟剣詩舞、映像の各部門に分担していただきました。

団体紹介では、竹山会、観世流大江観世社岩国支部、山村流若葉会、淡交会岩国支部の四団体にご登壇願いました。

それぞれ、各団体及び執筆者の暖かいご協力を賜り、深く感謝しております。

今後とも本「会報」へのご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、会報の編集や記事に関し、皆様方から忌憚のないご意見・ご感想をいただきたいと存じます。ご投稿をお待ちしております。

(編集委員 久村、吉村、武重、川野、元島)